



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

2000年4月1日発行 第23号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

_____ ロンダ市代表団いよいよ来浜 _____ 各種の記念歓迎行事を予定

すでに会報22号でお伝えしたように、今月2日、いよいよ当協会が「さくら」を植樹したロンダ市より、副市長をはじめとした横浜訪問団が来浜します。そこで、協会ではこの訪問団の方々に楽しく横浜での思い出を作っていただけるよう、いろいろな歓迎行事を企画しました。その歓迎行事の概要は下記に記したようなものです。

ロンダからのお客様を心から歓迎する意味も含め、多くの会員皆様の各種歓迎行事へのご参加をお待ちしております。

歓迎行事ー1 4月3日(月) マリーンルージュ号船上歓迎食社会

集合場所 13:00 山下公園発着所
時 間 13:30から15:00
会 費 5,000円
募集人員 先着54名

歓迎行事ー2 4月3日(月) ロンダ代表との懇親会

場 所 NAVIOS横浜2階宴会場「オリージャ」
時 間 16:00から18:00
会 費 無料
募集人員 先着24名(募集終了)

歓迎行事ー3 4月4日(火) 東京バスツアー

スペイン大使館訪問／千鳥ヶ渚のさくら見学／隅田川河畔散策／浅草寺見学等を予定
集 合 8:15までにNAVIOS横浜ロビー
会 費 3,000円
募集人員 先着23名

歓迎行事ー4 4月5日(水) 熱海MOA美術館桜庭園見学バスツアー

MOA美術館桜庭園見学／帰路鎌倉大仏見学予定
集 合 8:15までにNAVIOS横浜ロビー
会 費 3,000円
募集人員 先着23名

応募方法

募 集 対 象 : 横浜スペイン交流協会会員およびスペイン語教室受講者。
事務局宛お申し込みください。先着順に締め切ります。

●協会創立10周年記念「さくら植樹」基金募集事業 ——

スペイン映画「私の秘密の花」 (La Flor de Mi Secreto)

関内ホールで上映

「私の秘密の花」は、鮮やかな色彩感覚・ファッショナブルな映像センスが素晴らしい、スペインの鬼才、ペドロ・アルモドバル監督の作品である。

主演は、同監督の「ハイヒール」でお馴染みのマリサ・パレデス。そして、あの「若きフラメンコの貴公子」の異名を持つホアキン・コルテスが出演していることでも話題の映画である。

スペイン好きを自負する会員各位には、絶対見逃せない映画といえよう。

日 時 6月13日(火) 14:00~16:00

場 所 関内ホール JR関内駅 北口下車徒歩5分

参加費 500円

あなたは心の中に＜秘密の花＞を持っていますか？

—「私の秘密の花」のみどころとあらすじ—

この作品は“優しい気持ち”の映画だが、メインテーマは＜孤独＞しかも＜女の孤独＞という過酷なドラマだ。だが、映画を見終わった後の安堵感は、登場人物に悪人がいないせいだろうか。

マドリードに住むレオは、アマンダ・グリスというペンネームでロマンス小説を書いている。それは夫のパコが知らない彼女の秘密。レオはいらいらしている。パコがくれたブーツがどうしても脱げないと、軍人のパコの態度への不安から、小説も思うようにはかどらないからだ。パコへの思いにがんじがらめになっているレオの心理状態を監督は、脱げないブーツで表現している。

遠くにいるパコを求めながら、レオは夫にすでに見捨てられている自分に気付いている。レオの相談相手は、心理カウンセラーの女友達ベティ。彼女はレオの気分を変えさせようと新聞社の編集者アンヘルを紹介する。レオの中に潜む幼児性と自分を熟視する厳しさ。レオは、匿名の批評家となって自分自身を厳しく批判する。

アンヘルはレオに一目惚れしてしまう。男性でありながら、母親のような優しさを持つアンヘル。パコに去られ、睡眠薬を飲み朦朧として街をさまようレオは、アンヘルに救われる。アンヘルはレオに＜君の“秘密の花”を開かせた＞と言う。家に帰るとベティが心配して待っていた。ベティはパコの愛人で鍵はパコがくれた。だが、レオのためにパコとは別れた、とベティ。

レオの母は、妹のロサと暮らしているが、都会の生活になじめず故郷の村へ帰るとレオに電話してきた。レオは母に同行する。傷心のレオに母は“鈴なし牛”の話をする。レオはまさしく＜カウベル＞を失った迷い牛だった。刺繍をする女達に囲まれ、少しずつ癒されてきたレオに、今度の2作分の原稿は素晴らしいとの電話が入る。覚えのない原稿はアマンダ・グリスの秘密を知ったアンヘルが、こっそり代作して送ったものだった。彼の計らいに感謝するレオ。

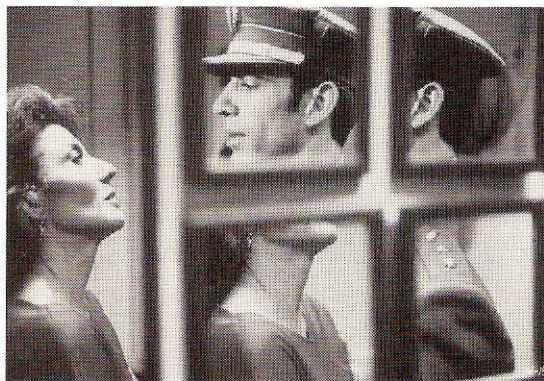
この作品の中で、アルモドバルは「彼の秘密」を見せている。監督が今まで都会の過剰を描いてきたのは、農村における空白の景色に対するアンチであったことを示しているようだ。

映画鑑賞のお申し込み：郵便振替をご利用下さい。

振 込 先：横浜スペイン交流協会

問い合わせ：寺原瑛子委員

※当日、振替領収証をご持参ください。



▲レオ (マリサ・パレデス) と
レオの夫パコ (イマノール・アリアス)

「私達のスペイン展」展示作品を募集

協会では、創立10周年を記念して、下記の要領で、「私達のスペイン展」を開催する。

そこで、この作品展に展示する作品を、会員の皆様から募集する。スペインへ旅行したときの思い出の写真や、スケッチ、あるいはふと立ち寄った田舎町で教わったアルテサニーアなど、スペインに関係した作品なら、何でも大歓迎。ふるってご応募ください。

□開催期日 2000年7月1日（土）～9日（日）

7月1日（土）は会場展示設営と協会内覧会、7月2日から一般公開。

□開催場所 かながわ県民活動サポートセンター展示場（1階）

□出展会費 無料 入場料 無料

□後援 スペイン大使館（予定） スペイン政府観光局（財）横浜市国際交流協会 神奈川新聞社

□展示作品募集対象

横浜スペイン交流協会会員とスペイン語講座受講者及び賛助会員

1. 写真の部（第5回スペイン写真展）

スペインで撮影した写真で撮影年代は問わない。1人で何点でも可。審査の上展示。

展示作品数 四つ切50点

2. 絵画の部（新設）

油絵、水彩画、ペン画、版画などスペインをテーマにして自分で制作した作品。

サイズは4～6号を原則とする。

3. 手芸工芸の部（新設）

自作のものでスペインに関するもの、刺繍、ハンドクラフト、人形、押し花など。

出展予定の方および出展検討中の方は、下記までご連絡下さい。

1. 写真の部 朝倉部委員
2. 絵画の部 牧瀬貢委員
3. 手芸工芸の部 中村瑛子委員

スペイン語講座戸塚・高柳教室が創立10周年記念事業企画を実施

「アマポーラ」戸塚・高柳教室が、スペイン語講座として協会創立10周年記念事業企画第1号に、コルドバ県のバエナ訪問の名乗りをあげた。

この企画は教室で購読しているテキストの旅行記の主人公と同じルートを辿って同じ体験をして見ようというユニークなアイデアによるものである。

「アマポーラ」教室代表団一行6人は4月16日、日本を出発し、20日から23日までバエナでセmanaサンタを過ごす。その間、市役所訪問、市長との会食、ホァン・レニャ・駐日スペイン大使の紹介状を携えてのオリブオイル工場見学、バエナの二つの小学校から、「私達のスペイン展」に展示するための児童の絵の提供を受ける等が計画されている。

なお、これを機会に今後、市民同志の交流に発展することが期待されている。

情報交流で盛り上がる!!—スペインサロン

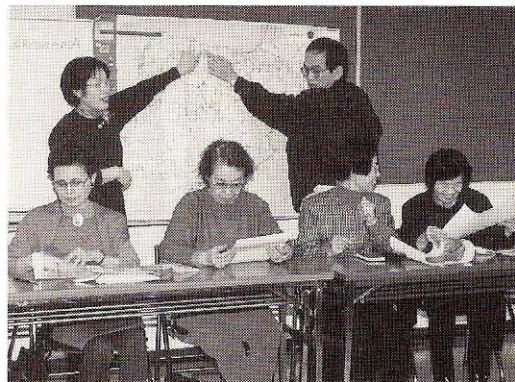
■ 1月のスペインサロン

新春のスペインサロンは1月8日、「スペイン音楽」がテーマで18名が集まった。

山のようにCDを抱えて来た方もあり、それぞれが思い入れのスペイン音楽を語った。

特にホアキン・ロドリーゴ作曲の「アランフェス協奏曲」には、たくさんのファンがいた。この曲は、妻の病気が悪いときにロドリーゴが願いを込めて作曲したものだと、宮川さんが語ると、ロドリーゴは、3歳の時に病気がもとで失明したと牧瀬さんが解説。さらに飯塚さんが、かつて来日中のロドリーゴに直接面会したことがあるというエピソードまで飛び出した。

スペイン各地の民族音楽のCDがかかると自然に手拍子が起こり、また、トゥナの曲ではみんなで合唱になったりと、なごやかな楽しい一時をすごした。



▲地方の音楽の紹介は地図で説明

■ 2月のスペインサロン

2月19日は「スペイン旅行」がテーマ。当協会会員でスペイン旅行専門の太陽海外航空（株）にお勤めの日野顕さんを中心に話が進んだが、まずは、格安航空券の落とし穴や、特にマドリードの治安の悪さとその対策について等、専門家の有意義な話を伺った。

出席者はスペイン旅行の経験の豊富な人が多く、お勧めホテルの名前や、自分で予約する時の注意点、列車のチケットの買い方等、具体的な質問が続いた。また、語学留学、熟年留学に関心が集まったが、参加者の中に実際留学経験のある人が何人かいて、興味ある話が聞けた。

それぞれのスペイン旅行に楽しい夢が膨らむ一日であった。

■ 3月のスペインサロン

3月18日、神奈川大学スペイン語学科教授の藤田一成先生をお招きして、先生の近著「カルロス皇帝の悲劇」をもとに中世のスペイン歴史についてお話いただいた。

コロンブスを援助したことで有名なイサベル女王の孫であり、スペイン王位を継承したカルロス一世は、同時に神聖ローマ皇帝カール五世としてお馴染みの人物である（そのため、通称カルロス・キントと呼ばれる）。その一生をカトリック擁護のため、旅と戦いに明け暮れて、疲れ切った彼は、死を迎えるまでの最期の時をスペインのユステの僧院で過ごすことを望んだ。気候も良くなく、不便なエストゥレマドゥーラ山中のユステに辿り着くまでのいきさつや、そこでの生活の細かい描写から、当時の時代の様子がリアルに浮かび上がり、活発な質問も飛び交った。

これを機会に、もっとスペイン歴史を知りたいと思った人も多く、ぜひ、またこのような企画をという声が上がった。

スペインサロンへのお誘い

スペインサロンは原則として毎月第3土曜日の午後開催しています。

参加費は通常、会員は無料（非会員は500円）。ただし、外部より講師に来ていただく場合は参加費1,000円（非会員は、1,200円）になります（お茶とお菓子付）。

今後のスペインサロンの予定は次の通りです。

■ 日 時：4月15日（土）14：00～16：00

場 所：神奈川自治会館 8F音楽室（中区山下町75 TEL 045-664-7500）

テーマ：パルマ（フラメンコの手拍子）の真髄

中国建国50周年に招かれ、中国に初めてフラメンコを紹介した日本人として知られる、フラメンコ舞踊団・アトランタ主宰 小島武士氏、バイラオーラのミチコ・メメさんほか数人の方が指導してくれますので、ぜひ皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

■ 日 時：5月20日（土）14：00～16：00

場 所：県民サポートセンター 711号室

テーマ：パラドールについて（予定）

■ 日 時：6月17日（土）14：00～16：00

場 所：神奈川自治会館 602号室

テーマ：スペイン映画

問い合わせ：石川美知子委員

寺原瑛子委員

高柳治子委員

※参加申し込みは委員までご連絡ください。

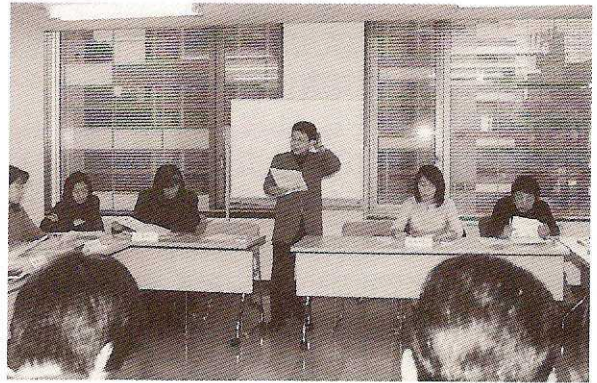
「第3回旅行スペイン語実践集中講座」大好評で終了！

スペイン語圏に初めて旅行しても、これだけ学べば安心！ という旅行スペイン語特別集中講座も毎年開講し、今回で3年目。

今年はスペイン語も初めてという方を対象に、2月第2、3、5火曜日の3日間にわたり開催した。

スペイン人が間違っって日本人に生まれてきたような栗山由美子講師のユーモアあふれる巧みな導入で、たちまちのうちに受講者はスペインの世界にと溶け込んだ。

このような1ヵ月間の特別集中講座を今後は、「滞在スペイン語」、「短編講読」のような中級者用プログラムにも広げていく予定である。



▲ユーモアあふれる栗山講師の講義が評判

スペイン料理を楽しく学ぶ会をはじめます

かねてより、会員の中からスペイン料理の作り方の講習会を開いて欲しいとの要望があったが、今回ようやくその準備も整い、下記の要領で開催できることになった。

指導は、横浜駅東口でスペインレストラン「オリーブ」を経営しているオーナーシェフの中村さん。なお、スペインレストラン「オリーブ」は当協会の賛助会員でもある。

日 時：6月4日（日）11：00～13：30

会 場：スペイン料理レストラン「オリーブ」 TEL 045-441-4996

内 容：レストランの厨房を使い、オリーブのオーナーシェフの中村さんから、スペイン料理を学び、昼食にサングリアを飲みながら料理を賞味する。

場 所：西区高島2-5-10 ストック菱沼ビル1階

（JR横浜駅東口、崎陽軒の先の橋を渡り左手の通りの中ほど。）

募集人員：10名（先着順）

会 費：3,500円

申込先：朝倉雅子委員

スペイン人と文通してみませんか？

昨秋、別掲のような手紙が当協会宛に届きました。

手紙の文面から判断すると、マグダレーノ氏は、マドリードの日本大使館を訪ねて当協会を紹介されたようですが、非常に日本への興味を持っており、スペインに興味関心のある日本人との交流を希望しています。

Ciudad Realは、ラ・マンチャの中心都市で、風車のある景観も楽しめます。マグダレーナ氏とコンタクトを取り、ラ・マンチャを旅してみるのはいかがでしょうか？

協会として彼に依頼する事は当面見あたらなひのですが、協会員の中で手紙を読んで興味をもたれた方は、是非彼に手紙を書き、日本とスペインの友好の輪を広げてみてはいかがでしょうか。

マグダレーノ氏の住所：Corredera 8 Alcazar 13600 Ciudad Real Spain

Sr. R. Magdaleno

マグダレーノ氏の手紙の訳文（高柳治子会員・訳）

拝 啓

在マドリッド日本大使館を通して貴協会の住所を手に入れました。我が国との交流に貢献しておられる貴協会のような団体があることを、私は嬉しく思います。

最近私は日本を旅行してまいりました。そして今、スペインに関心をお持ちの日本の方々とお知り合いになれたらと思っております。私は語学教師です。スペイン語と英語が出来ますので、将来は旅行センターか、これら二カ国語の学習センターを設立したいと考えています。

私はラ・マンチャ地方のある所に住んでいます。近くにはグラナダのアルハンブラ、コルドバ、セビリア、そして冬には、とりわけすばらしい海もあります。

交流などを目的として、私とコンタクトをお持ちになるおつもりはないでしょうか？ 私の意向は文化的なものに限られており、かつ利益主義でやるものではありません。

必要経費のみで、お受けするつもりです。

もし、興味があたりでしたら、ご連絡ください。喜んで、人的及び地域観光等の資料などをお送り申し上げます。

敬 具



★★★★★賛助会員紹介（第3回）

JTB団体旅行横浜支店

日頃より会員の皆様にご愛顧をいただき誠にありがとうございます。当支店では95年10月さくらミッションツアー、98年2月第3回さくら植樹スペイン友好親善と2回ロンダ市訪問の旅に、ご斡旋、ご協力させて頂きました。ご参加の皆様には大変ご協力頂きありがとうございました。

当支店の場所は関内馬車道通りに面しており、支店の正面には周さんのお店「生香園」があるところに位置しております。1階は旅のサロン馬車道（個人的な旅行相談コーナー）3階が熟年旅行センター（熟年旅行相談コーナー）、4階が皆様方のご旅行をご案内させて頂く担当の営業3課がごございます。

営業3課の特徴は、自治体の視察旅行など公務マーケット営業を中心に文化・組織団体などの旅行を総勢12名のスタッフにてご斡旋させて頂いております。神奈川県唯一の団体旅行専門支店で、航空機・ホテルなどの手配力が強い支店ですので、一声かけて頂ければ幸いです。

日頃のご旅行などのご案内につきましては、鈴木健太郎、清水良子、小林優紀が担当させて頂いておりますので、お近くにお出かけの際は気軽にお立ちよりください。

なお、会員の方へのサービス内容につきましては、ルックJTB（海外旅行）、JTBエース（添乗員つきの国内旅行）

を3%割引。JTBトラベランド店にて利用出来る旅行用品10%割引特別カードを進呈させて頂きます。

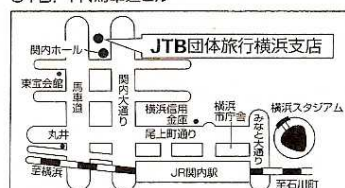
お申し込み、お問い合わせは



営業1課 045-664-2725(代)
営業2課 045-641-1900(代)
045-641-7250(代)
営業3課 045-664-2730(代)
営業4課 045-664-2760(代)

JTB団体旅行横浜支店

横浜市中区相生町4-75 〒231-0878
JTB. YN馬車道ビル



営業時間 9:30~17:30（土・日・祝日はお休み）

スペインワイン探訪 (第3回)

—カバ編—

— 山 崎 宗 城 —

スペインワイン探訪も今回が最終回。発泡ワインで最も有名なものはシャンパン。これは、フランスのシャンパーニュ地方で造られたものだけが名乗ることのできる名称だ。このシャンパンに、勝るとも決して劣ることのないスペインの発泡ワインがカバだ。

カバ (CAVA) は伝統的な「シャンパン式醸造法」に基づいて造られるスペインの発泡酒です。現在、カバの名称が認められている地方は、スペイン全体で10県 (プロビンシア) に亘りますが、元来カバの起源は、19世紀の後半にフランスのシャンパーニュ地方の醸造法がピレネー山脈を越えてもたらされたのが、カタルーニャ地方であったことにより、今でもカバの90パーセント以上はカタルーニャで生産されています。

今回は、バルセロナ県のロジェ・グラート社を訪ねました。ここはカタルーニャの守護聖母が宿るモンセラットの山々とそのベネディクト派の修道院が有名な高地アルトペネデス地域です。正確にはゾーナ・ダノイア地区のサント・エステーベ・セスロビーレス村です。

ブドウ品種＝白ワイン用としては、マカベオ種 (ビウラ種とも呼ばれる)、チャレツロ種、パレリャーダ種が中心で、さらにスピラット種 (マルバシア・リオハーナ種) とシャルドネ種。

赤ワイン用としては、ガルナッチャ・ティンタ種とモナストレッリャ種。

ロゼワイン用としては、上記赤ワインに加えて、ピノ・ノワール種とトレバ種が認められています。ベース・ワイン＝圧搾から醸酵まで。

カバ醸造第一段階では、一番搾りの葡萄汁だけが使用されます。これは、皮の苦みがモストに移らないようにし、より柔らかくエレガントなワインを造り出す為で、150キログラムのブドウから100リットルの果汁が限度と規定されています。

醸酵は、厳重な温度管理で (通常15～18℃の下) 約10日間で完了し、その後酒石酸を取り除くため冷却されます。

アルコール度9.5～11.5%、酒石酸度最低1リットル当たり5.5グラム等々と規定されています。

カバ＝第2醸酵

ここからの工程がカバの特徴です。

醸酵が終わると、ブドウ品種ごとに別々に醸造したワインを各タイプに応じてブレンドします。

ティラヘ (TIRAJE) ＝ブレンドされたベースワインとリコール・デ・ティラヘをビン詰めすること。

リコール・デ・ティラヘ (LICOR DE TIRAJE) は、蔗糖と強化され調整されたブドウ汁に酵母を加えたものです。ティラヘ後、固く栓をされた瓶は地下の貯蔵庫 (CAVA) に移されクリアンサが進みます。

リマ (EN RIMA) ＝水平に置かれた瓶内で第2醸酵が始まり、糖分はすべて二酸化炭素に分解され、ワインに発泡性が生じ、また熟成が進みます。

動瓶とオリ取り (REMOCION Y DEGUELLE) ＝第2醸酵が終わると、死滅した酵母菌等の沈殿物を瓶から取り除かねばなりません。

その為ボトルはピュピトルと呼ばれる木製の棚に並べられ、そこに瓶の口を差し込み、口を下に斜めに保ち毎日少しづつ瓶を回転させ次第に逆さに立て、瓶内のオリを瓶の口の部分に集めます。

私の訪れたカバは、ピュピトルと併用して「ひまわり」と呼ばれる鉄製のパレットも使われておりました。

オリ抜き (DEGUELLE) は、フランスではデゴルジュマンと呼びますが、現在は完全に機械化され、瓶の口を下向きに差し込まれたボトルは、ベルトコンベアーで移動し塩水の凍結液に口の部分が浸され、瓶内の沈殿物を凍らせます。

この状態で抜栓しボトル内圧の力で沈殿物の固まりを飛び出させます。

ワインは、完全に澄んだ輝いた状態に残ります。

リコール・デ・エクスぺディシオン (LICOR DE EXPEDICION) ＝オリ抜きのすんだワインは瓶内ワイン残量の減った分を補って同じ発泡ワインが加えられ、門出のリキュールが加えられ、本物のコルク (TAPON DE CORCHO) がはめ込まれ針金をまいて固定されます。

リコール・デ・エクスぺディションは蔗糖、ブドウ汁、醗酵、強化されたブドウ果汁等です。

原産地呼称統制委員会では、ティラヘからオリ抜き期間は最低9ヵ月を義務づけていますが、現実には、それ以上の長期間のクリアンサがなされており、長期のクリアンサにより泡は細かく安定し、香りが立ちやすく複雑なコクが出て来ます。

カバの最終段階では、アルコール度10.8～12.8%、酒石酸度最低1リットル当たり5.5グラムであり、門出リキュールの添加による残留糖分の量によって、カバは次のように表示されます（各1リットル当たり）。

エクストラ・ブリュ（EXTRA BRUT）＝6グラムまで。

ブリュ（BRUT）＝15グラムまで。

エクストラ・セコ（EXTRA SECO）＝12～20グラム

セコ（SECO）＝17～35グラム

セミ・セコ（SEMI- SECO）＝33～50グラム

ドゥルセ（DULCE）＝50グラム以上

フランスのシャンパンと同じ製法ながら、スペイン独自のブドウ品種で造られるカバには独特の芳香と風味があります。



▲ロジェ・グラート社のブドウ畑でブドウの萌芽を調べる
ホセ・バルス・ボウ氏

会員投稿

会話が出来なくても心通じたスペイン語（第2回）

湖 上 昇

アメリカでスペイン語を話す若者に助けて貰ったこともある。1991年、当時TV放映されていたゴルフレッスン番組の小松原プロと一緒にロスアンジェルス南方のパーム、スプリングスへ行った。この辺りは昔スペイン領だったせいか今でもスペイン語が話されていると聞いた。泊まったホテルもキンタ（別荘）という有名なホテルだった。当地は市内に60ヵ所以上のゴルフ場があるアメリカでも屈指のリゾート地で、各人が泊まる部屋は皆一戸建てで十棟に一ヵ所ほどのプールがあり、昼間ゴルフをして夜はこのプールで遊べるようになっていて、アメリカらしいリゾート施設だった。

ある朝起きてパジャマ姿のままベランダで、外の空気を吸いながらぼんやりしていたら、後ろでバタンと音がしてドアが閉まってしまった。アッと思ったが遅い。電話も中だし、打つ手なし。

ホテルのフロントへ行くには、クラブハウスの後に戸外にテーブルを並べた朝食用の食堂を通らなければならない。近く迄行ったらもう早い人達は食事をしている。植込の外から誰かボーイが来たら呼ぼうと考えたが生憎誰も気づいてくれない。やむを得ず覚悟してテーブル席を通してフロントへ行こうとしたら、一人のボーイが私に気づいてくれた。手招きして呼んだ。彼も私のパジャマ姿をみて何かを感じたらしくニコニコしながら私のところへ飛んで来てくれた。

I've left the key inside. Please open the door.と言ったら彼がSi espere un momento.と言った。これがスペイン語と気付く迄、しばし時間がかかった。ドアを開けて貰って助かった。帰りがけにThank you.とうっかり言ったらDe nada.と言ったので¿Eres español?と聞いたら黙って笑いながら帰っていった。その後で食事に行ったら彼がいて、ニコッと笑いながら私のコップにコーヒーをついでくれた。Muchas gracias.と言ったらDe nada.と言って去って行った。場違いのパジャマ姿の日本の老人と助けてくれたスペイン系の若者とは何だか判らないが温かい交流があったように今でもなつかしく思っている。

現在は、頭の体操を兼ねて多少なりとも会話がスムーズになればと栗山教室（セレス）へ通い楽しく学んでいるところである。

スペイン、北の旅 (第2回)

高柳 治子

5月21日

朝食後、カサ・デル・コルドンへ出かけました。ここは今は銀行として使われていますが、1497年にカトリック両王が、2度目の新大陸への旅から帰ってきたコロンブスを、この館で迎えました。また、カルロス五世の父君が亡くなられたのもこの館でした。王の棺がこの館からラス・ウエルガス修道院へ運ばれていく絵を見たことがあります。しかし土曜日だったので、中へ入ることはできませんでした。道をはさんだ洋品店の奥さんが、「記念に写真だけでも撮ってあげましょう」と、シャッターを押してくれました。別れを告げ、町の中心にあるプリモ・デ・リベラ広場に出ると、威風堂々と馬にまたがりマントをひるがえすエル・シドの像が、朝の光のなかで輝いていました。

タクシーに乗り、ミラフローレス修道院へ向かいました。静かな丘の上にたつカルトゥハ会の修道院です。私が日本人であると見た受付の男性から、「聖フランシスコ・ザビエルが日本に到着して450年ですね。日本ではどのような記念の行事が行われていますか」と、尋ねられました。ここでは今も、30代の若い修道者が50人ほど修道生活を送っているそうです。このあと王立ラス・ウエルガス修道院を訪ね、少し疲れてホテルへ戻りました。

午後6時、アルランソン川に沿ったエスポロン通りに人々が集まってきました。ポプラ並木の下を家族であるいは友達と、夕食前のひとときをゆっくりと散歩したり、円陣をつくっておしゃべりをしたり、テラスに座ってお茶をのんだり……。それは一日を無事に終えた人々の、感謝の祈りにも似た心なごむ風景でした。

5月22日

今日、全世界のカトリック教会は、聖霊降臨の大祝日を祝います。私は昨年はこの日をサンティアゴ・デ・コンポステラで迎えました。そして今年はブルゴスで祝います。朝10時のミサに出ました。聖堂は土地の人や、これからサンティアゴへ向かう巡礼の人たちであふれていました。“平和のあいさつ”のところでは、いろいろな国のたくさんの人々が、この小さな日本人にも、ほほえみながら手をさしのべてくれました。

大聖堂前のかわいいパン屋さんが店を開けていましたので、サンドイッチをつくってもらい、ブルゴス駅へ向かいました。これからバスクのフエンテラビア（バスク語ではオンダリビア）へ行くのです。汽車の中は、これからフランスのルルドへ行くという小学生たちで大変なにぎわいでした。ビトリアを過ぎたあたりから、車窓をすぎる風景が少し変化していることに気がつきました。不毛の地を思わせる岩山ではなく、濃い緑の中に点在する美しい家、家、家。細長いガラス窓とみどり色の窓枠、木製のベランダを彩る赤、黄、紫、ピンクの花、そして少し恥かしげに窓からのぞくレースのカーテン。

『ああバスクに来たのだ』と、何か感動のようなものをおぼえました。まもなくサン・セバスティアン駅（バスク語でドノステイア駅）に到着とのアナウンスがはいると、あちらこちらでセーターを着はじめる人々が見えました。

駅に降り立って驚いたのは、すべてがバスク語で書かれていることでした。尋ねたずねてオンダリビア行きのバス停にたどりつき、バスに乗りました。運転手さんのうしろの席に座り、「パラドールについたら教えてください」と、しっかりたのみこみ、やっとほっとしてまわりを眺める余裕ができました。女性も男性も大柄で、しかもふんわりやわらかい感じがしました。きっと穏やかでやさしい人たちなのでしょう。ETAのあの過激な活動と相入れない思いがしました。

フランスとの国境の町イルンを経由し、1時間ほどでオンダリビアに着きました。別れ際に運転手さんは、「よい旅を」と言ってくれました。この何気ない一言が、どれほど私に喜びを与えてくれたことでしょうか。10分ほど坂をのぼると、小さなアルマス広場に出ました。この広場に建つ城塞が、オンダリビアのパラドール「エル・エンペラドール」



▲アストゥリアスの一漁村ロラ・フランカにて
(中央筆者)

ル」です。約1000年前に築かれたということで、正面の入り口にはハブスブルグ家の双頭の鷲の紋章が誇らしく掲げられていました。サロンには槍や鎧などが飾られ、壁につくられた銃眼の下に立つと、この城の中でくりひろげられた歴史の一コマコマが目に見えるようでした。

私の部屋はビダソア川に面していて、左手にはビスケー湾が見えました。錨をおろした船、のんびりと川をのぼっていく船、さらにその向うにはフランスの町エンダイヤのあざやかな家並みが絵のように美しく眺められ、ここではあたかも時は止まっているかのように、ゆっくりゆっくりと流れていきました。

パラドールの周辺とそのとなりのサンタ・マリア教会、その前をゆるやかに下って行くと石畳の坂道あたりが旧市街です。ベランダがつき、ひさしに手のこんだ細工をした木造家屋がならんでいました。日本の城下町で見かける家とどこか似ている感じがしたのは、一人旅の感傷のためだったのでしょうか。

5月24日

サン・セバスティアンのバス・ターミナルからサンタンデルに向いました。ビルバオで停車した以外は、寄り道なしで3時間。サンタンデルからさらにバスに乗って40分。途中、何人かの人にごこへ行くのかと尋ねられ、「サンテジャーナ・デル・マルに行く」と答えると、皆が皆うれしそうに「美しい村」と返事を返したあとで、いたずらっぽく笑いながら、「あそこはその名前とはうらはらに、サント（聖人）はいないし、ジャーナ（平原）はないし、マル（海）はない所だよ」と言って、私を笑わせてくれました。

サンテジャーナ・デル・マルは歴史の村です。中世の街並みがそのままに残るこの村には、石造りの古い貴族たちの館が今も昔のままに残り、館の入り口には大きな紋章がその歴史を物語るかのように刻みこまれています。聖女フリアナの聖遺物を守るために建てられた修道院がこの村の起源といわれていますが、そのわきの水のみ場へは夕方になると牛が水を飲みに来ていました。

サンテジャーナ・デル・マルは花の村です。どの家のベランダも花で埋まり、こわれた大八車までもが花で飾られていました。夕方、サンティアゴ・デ・コンポステーラから来た友人2人とパラドールで落ち合いました。

5月25日

朝10時半にパラドールヘタクシーに来てもらうよう手配しました。コミツリャス、サン・ビセンテ・デ・ラ・バルケラへ行くためです。この一日が楽しく過ごせるかどうかは、運転手さんとの最初の数分間にかかっていると思います、明るく声をかけました。彼も同じことを思っていたのか、私たちの間で二・三度言葉が往復するだけで嬉しい予感がしました。

おしゃべりを楽しみながら30分ほどでコミツリャスにつきました。朝もやの中に、コミツリャス大学がかすんで見えます。コミツリャス侯爵邸とその庭に建てられたガウディ設計のエル・カプリチョを訪ねた後、途中の小さな村に立ち寄りながら、サン・ビセンテ・デ・ラ・バルケラへ向いました。小さな漁村ですが歴史的には古くて、13世紀から15世紀ごろにかけて非常に繁栄したそうです。昼食の時間になりましたので、ぜひここで食べてみたかった、いわしを食べました。運転手さんとはもうすっかり仲良しになっていましたので、彼はいわしの食べ方や、いわしを食べた後の手や指の匂いの消し方などを教えてくれました。

この後に訪ねた“天使たちの聖母教会”は、ロマネスク様式のそれは見事な教会でした。

彼のすすめに従い、ペチョンへ行くことにしました。窓の外には緑色の草原がひろがり、羊や牛がのんびりと草を食べていました。本当に私はいまスペインにいるのかしらと何度思ったことでしょう。大きな入江が見えてきました。ペチョンです。透明なエメラルド・グリーンの水が静かに私たちを迎えてくれました。断崖の上に私たちは立っていました。突然彼が、その断崖を下りていきました。息をつめている私たちの前に、明るい赤紫色の花を手にして彼は姿をあらわしました。“一年の扉を開ける鍵”という名前で、幸せをもたらしてくれる花といわれているからと説明しながら、私たちに1本ずつプレゼントしてくれたのです。青い空、明るい陽光の下で、私たちは感激のあまり言葉もありませんでした。

そして、ラ・フランカへ。カンタブリアの海にせりだした大きな岩、緑の木々、白い砂浜。私たちは子供のように歓声をあげながら砂をかけあいました。

午後6時半、パラドールに戻りました。彼の好意に感謝しながら、そして彼と私たちとの間に通いあった友情を確かめあいながら、互いに別れのあいさつをかわしました。

5月26日

一路、マドリードへ。私に声をかけ、私とほほえみをかわしあい、笑いあい、私を助け、たくさんの楽しい思い出づくりに参加してくれた、心やさしい北の人たち。本当にありがとう。きっとまた、あなたたちに会いに戻ります。

心からの愛と感謝をこめて。

竹山健太郎さんの講演会に出席して

渡部伸代

『スペインパドール紀行』の著者、竹山健太郎さんの講演会があるというので、出席させて頂きました。以前よりパドールに泊ってみたいという夢？を持ちながらもそれに対する知識がほとんどない私は、86あるパドールをすべて宿泊されたと言うお話には大変驚き、またスペインの歴史にとっても造詣の深いお話はその歴史のエピソードを交えてでしたので、興味深く、楽しく伺いました。



特にパドールのレストランの食事は美味しく、食事だけにやって来る人も多いというくだりには、食いしん坊の私は小躍りしたくなる程嬉しくなっていました。“百聞は一見にしかず”とか、講演会后、早速その著書を購入しました。この本を持参して、来年こそは自分の足と拙いスペイン語を使って、パドール宿泊の夢を実現し、美味しい郷土料理とやらを思う存分堪能して来ようと思います。ア～アッ、これでまたダイエットの固い決意は夢物語に終わるのかしら？・・・

新入会員紹介

福井 陽子 (Yoko Fukui) 2000年2月入会
川崎市麻生区

将来、夫とスペインに長期滞在したいと考えております。スペインについていろいろ知りたいと思い入会しました。自宅でフラワーデザインを教えています。趣味は語学（英語・スペイン語）読書、社交ダンスです。石本道子さんと江口吉光さんにご紹介をいただきました。

***** INFORMACION *****

◆スペイン・ピアノ界の新星 ビセンテ・アリーニョ・ピアノ・リサイタルのお誘い

申し込み先着10名様を横浜スペイン交流協会設立10周年記念行事として、無料ご招待いたします。ご参加者の方の中から、当日の会場受付・案内などのボランティア活動をお願いしますのでご了承願います。

日 時 4月26日（水）19：00開演（18：30開場）

会 場 ヨコハマみなとみらい小ホール

交 通 桜木町駅・関内駅から徒歩15分

主 催 ㈱横浜インポートマート 共催 スペイン大使館 後援 横浜スペイン交流協会

申込先 事務局

プログラム

ショパンの主題による変奏曲他 F. モンポウ

バレエ曲「恋は魔術師」よりパントマイム他 M. デ・ファリャ

「ゴエスカス」より「嘆き、またはマハと夜鳴きうぐいす E. グラナドス

幻想舞曲集 熱狂「ホタ」他 J. トゥリナ

ビセンテ・アリーニョ略歴

1967年サラゴサで生まれる。マドリードの王立高等音楽院で教授を務めたあと、1993年以来、アルカラ・デ・エナーレスでスペイン教育文化省の音楽・舞台芸術教授グループの中で室内楽専任教授となる。1997年アルカラ市交響楽団の主任指揮者。2000年には、アメリカ、カナダでのツアーを予定。

◆新刊紹介「ヨーロッパに消えたサムライたち」

坂本重太郎顧問推薦の新刊書。著者 東海大学教授 太田尚樹 角川書店発行 1,700円

支倉常長の一行の中の数名がなぜスペインに残留したかについては諸説がある。この本は、ハボンさんに関心ある方々にとって最も納得のいく本であると考えお勧めする。

— スペイン・ミニミニ情報 —

◎城選手のことを知りたい方へ

サッカーJリーグ1部チームの、横浜Fマリノスより、レンタルでスペインのサッカー1部リーグのバリャドリードに移籍した選手といえば、フォワードの城彰二選手。そして、チームの2部転落の危機を救った2点のゴールは、横浜のサッカーファンならずとも、記憶に新しい。その城選手が所属するバリャドリードの公式ホームページは次の通り。

<http://www.realvalladolid.es>

インターネットに接続できるパソコンをお持ちで、スペインのサッカー事情に興味のある方は、ぜひ接続してみてください。TV中継だけでは得られない情報を得ることができる? かも・・・

◎インターネットで闘牛のチケットが手に入る

いよいよ闘牛シーズンの幕開けです。日本ではあまりファンのいない闘牛ですが、スペインへ行ったら、一度は闘牛を見てみたいという方、次のURLにアクセスすると、日本からでもチケットが入手できます。

<http://www.eol.es/lgalicia>

E-mail: lgalicia@eol.es

なお、チケットの受け渡しはマドリードのLocalidades GALICIAの事務所になります。

Localidades GALICIAのオフィスの住所: Plaza del Carmen 1 28013 Madrid

— 賛助会員各社の会員サービス内容 —

先般皆様のお手元にお届けした会員証を提示することで、下記の賛助会員各社より、各種のサービスを受けることができます。

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア一杯
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア一杯
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア一杯
カサ・デ・フジモリ目黒店	J R 目黒駅(東京) 徒歩5分	03-5420-5328	サングリア一杯
アランフェス	横浜スカイビル11階	045-442-0581	サングリア一杯
アマポーラYokohama	横浜ルミネ6階	045-453-6851	サングリア一杯
パラドル・デ・かまくら	江ノ電長谷駅そば	0467-22-6798	サングリア一杯
太陽海外航空(株)	東京都中央区京橋2-2-14山陽アネックスビル	03-3281-2441	日本出入国カード作成料及び成田空港使用料を負担する
JTB団体旅行横浜支店	横浜市中区相生町4-75 JTB、YN馬車道ビル	045-664-2730	ツアー料金割引(添乗員付だけ) ルックJTB、JTBエース各3%、旅行用品割引トラベランド店にて10%割引特別カード進呈
アトリエJUNE	横浜市神奈川区西神奈川1-6-1 サクラビル701	045-313-9417	押し花額制作代の通常価格から10%割引

<編集後記>

さくらの便りと共にロングからのお客様がやってきます。

花の咲き具合は神頼み?(天気まかせ)ですが、歓迎行事は成否は会員の努力次第。ぜひよろしくご協力お願いします。

* 投稿寄稿宛先 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター内
かながわ県民活動サポートセンター
レターケースNo.184 横浜スペイン交流協会会報係